

3.2.5 紹介できるボランティア活動の機会がない場合にどうしたらよいか？

ボランティア活動をしたい人が支援センターにやってきた場合に、その人が活動できるような受け入れ先のボランティア団体等がない場合にどうしたらよいのだろうか？

ここでは、人口規模の小さな町で活躍するボランティアコーディネーターの取り組み例を紹介する。

【ボランティア活動の希望者にぴったりの受け入れ先がみあたらない場合の対応例 ～人口2万人の町で活躍するボランティアコーディネーターの話～】

小さな町でボランティアコーディネーターをしていると、ボランティア活動をしたい人にぴったりな受け入れ先を紹介できないこともあります。

そんな時には、まず、その人が希望する活動分野に少しでも関わりがある活動をしている受け入れ先を紹介してみます。

しかし、その受け入れ先を本人が希望しない場合もあります。このような場合には、本人が自ら活動を開始できるように支援を行うことにしています。その支援には2つの方法があり、一つは個人として活動することを支援する、もう一つは本人が自らボランティア団体を立ち上げる支援をすることです。

<個人として活動することを支援する>

あるとき、視覚障害者のお手伝いをするようなボランティア活動をしたいというAさんが、ボランティアセンターにやってきました。残念ながら、この町や近隣の町村には、視覚障害者に対象をしばって活動しているボランティア団体がまだありません。

この町には、障害者全般を対象としているボランティア団体があるので、そこをAさんに紹介しましたが、やはり視覚障害を持っている人を支援する活動をしたいということでした。Aさんのこの思いは、視覚障害をもった人が街で困っているのを見た体験に基づいており、ボランティア活動に取り組む強い動機となっています。このような思いは、大切にしてあげたいものです。

そこで、Aさんに、ボランティア団体等で誰かと一緒に活動することはいったん先に延ばし、「個人で活動してみては？」と持ちかけました。Aさんが意欲を示したので、町の福祉担当者や社会福祉協議会と相談して、町に住んでいる視覚障害者のBさんを紹介することにしました。いきなりBさんへの支援活動を行うのではなく、まず、Aさんとボランティアコーディネーターと一緒に、Bさんの生活についてお話を聞く機会をもちました。Bさんがいろいろと日常生活の状況について語ってくれるなかで、Aさんは、Bさんにとってどんなことが生活上の問題となっているのか、そして、その生活課題のうちどの部分を自分がお手伝いすることができるのかを理解していきました。

Aさんは、Bさんが街に買い物に出かける際に同行することからボランティア活動を始めたいと、Bさんに提案しました。Bさんは快く申し出を受けてくれ、“これから仲良く

やっていきましょう。助けて下さることは、とても心強いです。”とおっしゃいました。

ここに、個人と個人の間のボランティア活動が誕生しました。今後は、この活動がより多くの人の間で広がっていくことができないかという意識を持ちながら、少し離れたところから見守っていきたいと思っています。

<本人が自らボランティア団体を立ち上げることを支援する>

町のはずれに広い緑地があります。そこは豊かな生態系をもっている町の財産なのですが、最近心ない人たちがゴミを捨てるなどしており、汚れてきている状態です。Cさんは、この緑地を保全するボランティア活動を開始したいと、ボランティアセンターに相談にきました。しかし、町には適当なボランティア団体がなく、また、一人だけで活動するには大変なテーマでした。

そこで、仲間を募集することにしました。ボランティアセンターで開催しているボランティア講座や広報誌等を通じて、Cさんと一緒に活動する人を募りました。同時に、環境問題に興味をもっていそうな人あたりをつけて、個別に打診もしてみました。

しかし、町のはずれにある緑地のこととなると、多くの人にとっては日常生活から遠いところであり、なかなか賛同者を得ることができませんでした。でも、あきらめずに、Cさんを励ましながらかつこと半年。やっと、一人から手が挙がりました。手を挙げてくれたDさんは、緑地の中を流れる川沿いに住んでいる人でした。その川の川上にCさんが、川下にDさんが住んでいるというかつこうです。

CさんとDさんは会って、お互いの考えを話し合いました。そのなかから、CさんとDさんの接点である川をきれいにする活動に焦点をしばっていかうということになりました。Dさんという仲間を得て、Cさんが当初考えていた広大な緑地の保全という漠然とした活動テーマが、人々にわかりやすい形で具体性を帯びてきたのです。

CさんとDさんは、お互いが住んでいる地点の間にある川沿いの世帯に、一緒に川をきれいにして環境を守ろうということを訴えていき、多くの人々の理解を得ていきました。CさんとDさんの自宅の間には、約 300 人が住んでいます。今では、この住民の多くが参加して、川をきれいにするボランティア活動を行う団体が立ち上がりました。

一人では立ち上げることが難しい活動でも、たった一人の賛同者を得ることによって、大きく動きだすことがあります。ボランティアコーディネーターは、人々の思いをつないでいき、新しい可能性が生まれていくお手伝いをする仕事なのかもしれません。

<留意点>

ボランティア団体を新たに立ち上げるとき、地域に同様の活動を行っている既存の団体がある場合には、この団体への配慮が必要となる。新しい団体に既存の団体の活動状況についての情報提供をしながら、両者の間で不要な競合や対立が起こらないように配慮しつつ、お互いが刺激しあったり連携することができる関係づくりを目標にしていくことが重要である。